



法人企業景気予測調査

(平成31年4～6月期調査)

長野県分

令和元年6月13日

財務省関東財務局
長野財務事務所

目 次

調 査 要 領 等	1
概 況	2
1. 企 業 の 景 況	3
2. 企 業 収 益 ・ 設 備 投 資	6
3. 雇 用	7
4. 国 内 の 景 況	8
5. 設 備 判 断	9
6. 設 備 投 資 の ス タ ンス	10
7. 資 金 調 達 方 法	11
< 参 考 資 料 > 企 業 収 益 の 全 業 種 集 計	12

《調査要領等》

1. 調査時点	令和元年5月15日
2. 調査の対象期間	
(1) 判断項目	平成31年4～6月（又は令和元年6月末）は現状判断 令和元年7～9月（又は9月末）、 令和元年10～12月（又は12月末）は見通し判断
(2) 計数項目	令和元年度は実績見込み
3. 調査対象の範囲及び選定方法	
	長野県に所在する資本金、出資金又は基金（以下、資本金という。） 1千万円以上※の法人で法人企業統計四半期別調査の対象法人などから一定の方法 により選定。なお、資本金30億円以上の法人については全数を選定。 ※「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」は資本金1億円以上の法人 から選定。
4. 調査の方法	調査票による郵送またはオンライン調査（自計記入による）
5. 集計の方法	法人企業統計の業種分類による単純集計

《調査対象法人・回収率》

	模 別			業 種 別		合 計
	大 企 業	中堅企業	中小企業	製 造 業	非製造業	
対 象 法 人 数	39	42	105	79	107	186
回 答 法 人 数	37	30	84	65	86	151
ウェイト(%)	24.5	19.9	55.6	43.0	57.0	100.0
回 収 率 (%)	94.9	71.4	80.0	82.3	80.4	81.2

(注) 1. 大 企 業：資本金10億円以上

中堅企業：資本金1億円以上10億円未満

中小企業：資本金1千万円以上1億円未満

2. 表中のウェイトは、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合がある。

(参考)

B S I（ビジネス・サーベイ・インデックス）の読み方

(例) 「企業の景況」の場合

前期と比べて

「上昇」と回答した法人の構成比・・・40.0%

「不変」と回答した法人の構成比・・・25.0%

「下降」と回答した法人の構成比・・・30.0%

「不明」と回答した法人の構成比・・・5.0%

B S I = (「上昇」と回答した法人の構成比・・・40.0%)

－ (「下降」と回答した法人の構成比・・・30.0%) = 10.0%ポイント

概 況

(1) 企業の景況

現状判断は、「下降」超幅が拡大

(2) 売上高(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)

元年度は、増収見込み

(3) 経常利益(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)

元年度は、減益見込み

(4) 設備投資(除く土地購入額、含むソフトウェア投資額)

元年度は、減少見込み

(5) 雇 用

現状判断は、「不足気味」超幅が縮小

(6) 国内の景況

現状判断は、「下降」超幅が拡大

(7) 設備判断

現状判断は、「過大」超に転じる

※いずれも全規模・全産業ベース

1. 企業の景況

－ 現状判断は、「下降」超幅が拡大 －

31年4～6月期の企業の景況判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「下降」超幅が拡大している。

これを規模別にみると、大企業、中小企業は「下降」超幅が拡大し、中堅企業は「下降」超幅が横ばいとなっている。

また、業種別にみると、製造業は「下降」超幅が縮小し、非製造業は「下降」超幅が拡大している。

先行きについては、大企業は7～9月期に「上昇」超に転じるものの、10～12月期に均衡となる見通し、中堅企業は7～9月期に均衡となるものの、10～12月期に再び「下降」超に転じる見通し、中小企業は10～12月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

《表1》企業の景況判断BSI

(前期比「上昇」－「下降」社数構成比)

(単位:%ポイント)

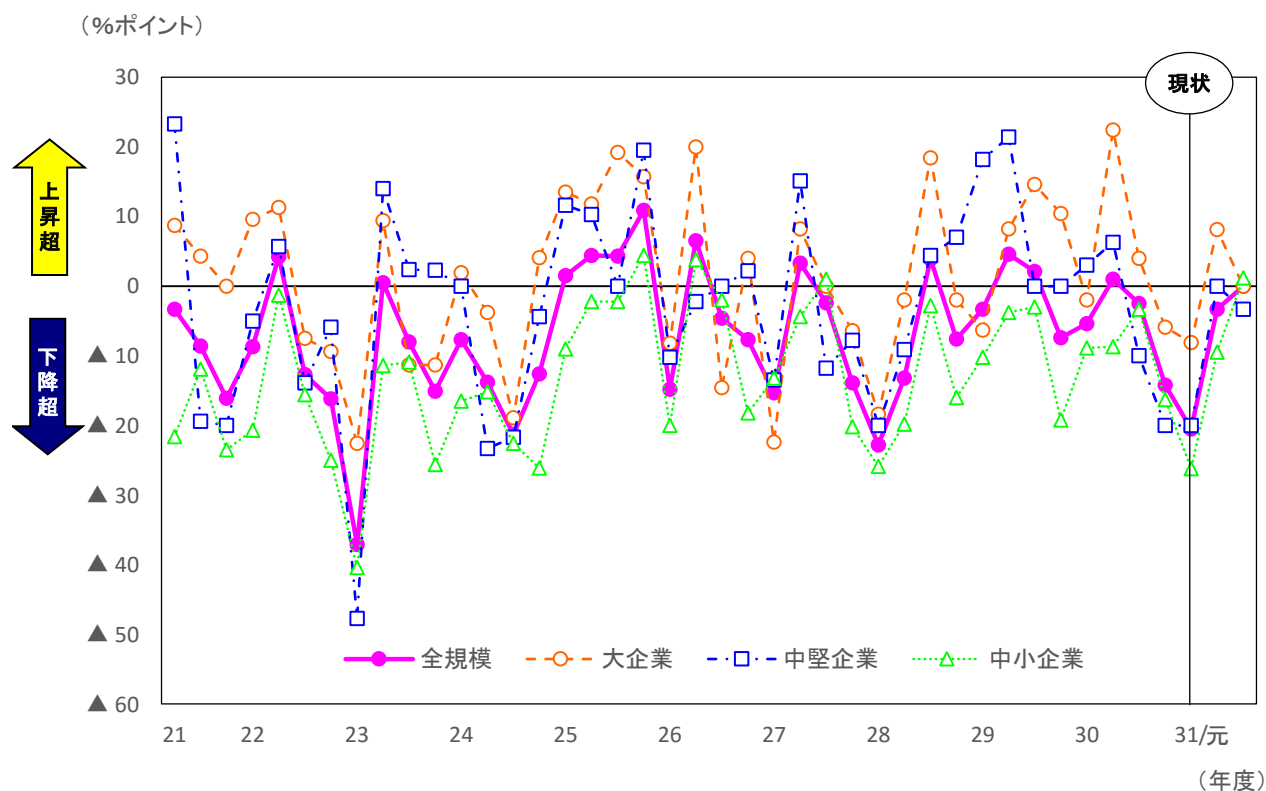
	31年1～3月	31年4～6月	元年7～9月	元年10～12月
全規模・全産業	(▲14.2)	▲20.5 (▲6.4)	▲3.3 (▲2.9)	0.0
大企業	(▲5.9)	▲8.1 (▲7.8)	8.1 (▲2.0)	0.0
中堅企業	(▲20.0)	▲20.0 (13.3)	0.0 (3.3)	▲3.3
中小企業	(▲16.3)	▲26.2 (▲10.6)	▲9.5 (▲4.9)	1.2
製造業	(▲23.0)	▲15.4 (▲2.3)	0.0 (▲1.1)	4.6
非製造業	(▲7.7)	▲24.4 (▲9.4)	▲5.8 (▲4.3)	▲3.5

(注) () 書は前回(31年1～3月期)調査結果。

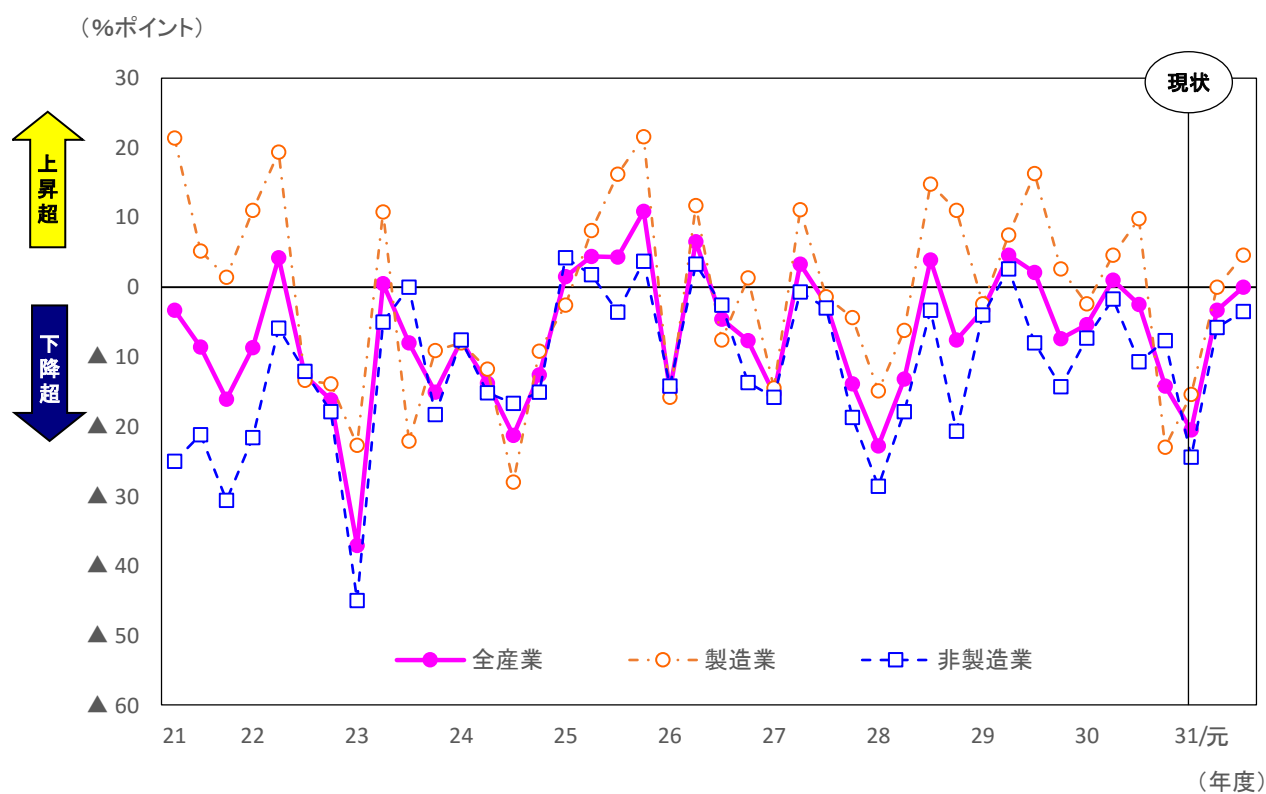
(参考) 寄与の大きい業種

		業 種 名
製 造 業	上 昇	生産用機械器具製造業 電気機械器具製造業
	下 降	情報通信機械器具製造業 自動車・同附属品製造業
非 製 造 業	上 昇	運輸業、郵便業 宿泊業、飲食サービス業
	下 降	建設業 金融業、保険業 卸売業 情報通信業

【図１】規模別企業の景況判断BSIの推移



【図２】業種別企業の景況判断BSIの推移



《表 2》企業の景況判断の決定要因

(回答社数構成比: %)

		全規模・全産業			製 造 業			非 製 造 業		
		4～6月	7～9月	10～12月	4～6月	7～9月	10～12月	4～6月	7～9月	10～12月
上 昇	①国内需要(売上)	87.0	94.7	91.7	76.9	90.9	91.7	100.0	100.0	91.7
	②海外需要(売上)	39.1	36.8	20.8	61.5	63.6	41.7	10.0	0.0	0.0
	③販売価格	26.1	26.3	29.2	15.4	18.2	33.3	40.0	37.5	25.0
	④仕入価格	21.7	10.5	29.2	23.1	18.2	41.7	20.0	0.0	16.7
	⑤仕入以外のコスト	13.0	5.3	12.5	15.4	9.1	8.3	10.0	0.0	16.7
	⑥資金繰り・資金調達	26.1	5.3	8.3	15.4	0.0	8.3	40.0	12.5	8.3
	⑦株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	17.4	10.5	16.7	23.1	18.2	16.7	10.0	0.0	16.7
	⑨税制・会計制度等	4.3	10.5	20.8	0.0	9.1	8.3	10.0	12.5	33.3
	⑩その他	4.3	0.0	4.2	0.0	0.0	8.3	10.0	0.0	0.0
下 降	①国内需要(売上)	94.0	90.9	78.3	100.0	100.0	77.8	88.9	81.8	78.6
	②海外需要(売上)	18.0	13.6	13.0	26.1	18.2	22.2	11.1	9.1	7.1
	③販売価格	42.0	31.8	26.1	39.1	18.2	11.1	44.4	45.5	35.7
	④仕入価格	34.0	54.5	43.5	39.1	54.5	33.3	29.6	54.5	50.0
	⑤仕入以外のコスト	26.0	22.7	17.4	4.3	9.1	11.1	44.4	36.4	21.4
	⑥資金繰り・資金調達	10.0	13.6	4.3	8.7	18.2	11.1	11.1	9.1	0.0
	⑦株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	4.0	4.5	8.7	4.3	9.1	22.2	3.7	0.0	0.0
	⑨税制・会計制度等	6.0	9.1	26.1	0.0	0.0	11.1	11.1	18.2	35.7
	⑩その他	2.0	18.2	21.7	0.0	9.1	11.1	3.7	27.3	28.6

		大 企 業			中 堅 企 業			中 小 企 業		
		4～6月	7～9月	10～12月	4～6月	7～9月	10～12月	4～6月	7～9月	10～12月
上 昇	①国内需要(売上)	80.0	85.7	80.0	100.0	100.0	100.0	85.7	100.0	93.3
	②海外需要(売上)	80.0	71.4	40.0	25.0	0.0	25.0	28.6	28.6	13.3
	③販売価格	0.0	0.0	40.0	25.0	20.0	25.0	35.7	57.1	26.7
	④仕入価格	40.0	28.6	40.0	0.0	0.0	25.0	21.4	0.0	26.7
	⑤仕入以外のコスト	0.0	0.0	20.0	25.0	20.0	25.0	14.3	0.0	6.7
	⑥資金繰り・資金調達	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	35.7	14.3	13.3
	⑦株式・不動産等の資産価値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	40.0	28.6	20.0	0.0	0.0	25.0	14.3	0.0	13.3
	⑨税制・会計制度等	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	⑩その他	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
下 降	①国内需要(売上)	100.0	100.0	60.0	87.5	100.0	75.0	94.4	86.7	85.7
	②海外需要(売上)	33.3	0.0	20.0	12.5	25.0	0.0	16.7	13.3	14.3
	③販売価格	33.3	33.3	20.0	50.0	25.0	50.0	41.7	33.3	21.4
	④仕入価格	16.7	33.3	0.0	12.5	25.0	25.0	41.7	66.7	64.3
	⑤仕入以外のコスト	33.3	0.0	20.0	37.5	0.0	0.0	22.2	33.3	21.4
	⑥資金繰り・資金調達	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	20.0	7.1
	⑦株式・不動産等の資産価値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	5.6	6.7	7.1
	⑨税制・会計制度等	0.0	33.3	40.0	0.0	0.0	50.0	8.3	6.7	14.3
	⑩その他	0.0	33.3	40.0	12.5	50.0	25.0	0.0	6.7	14.3

- (注) 1. 「金融業、保険業」は調査対象外。
2. 10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

2. 企業収益・設備投資

(1) 企業収益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）

－ 元年度は、増収減益見込み －

元年度の「売上高」は、全規模・全産業ベースで前年比0.6%の増収見込み、「経常利益」は、同16.2%の減益見込みとなっている。

「売上高」を規模別にみると、大企業は同0.7%、中堅企業は同0.9%の増収見込み、中小企業は同2.1%の減収見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同2.1%の増収見込み、非製造業は同1.2%の減収見込みとなっている。

「経常利益」を規模別にみると、大企業は同23.5%の減益見込み、中堅企業は同4.6%、中小企業は同2.1%の増益見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同10.5%、非製造業は同28.4%の減益見込みとなっている。

(2) 設備投資（除く土地購入額、含むソフトウェア投資額）

－ 元年度は、減少見込み －

元年度の「設備投資」は、全規模・全産業ベースで前年比7.3%の減少見込みとなっている。

これを規模別にみると、大企業は同8.2%、中小企業は同14.0%の減少見込み、中堅企業は同3.5%の増加見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同1.4%の増加見込み、非製造業は同32.0%の減少見込みとなっている。

《表3》企業収益・設備投資（元年度）

（前年比増減率：％）

	売 上 高	経 常 利 益			設 備 投 資
			(受取配当金を除く)		
全規模・全産業	0.6 (▲ 2.7)	▲ 16.2 (▲ 8.7)	▲ 18.5 (-)		▲ 7.3 (▲ 20.0)
大 企 業	0.7 (▲ 4.2)	▲ 23.5 (▲ 12.5)	▲ 27.2 (-)		▲ 8.2 (▲ 18.1)
中 堅 企 業	0.9 (0.7)	4.6 (▲ 1.3)	4.9 (-)		3.5 (▲ 26.3)
中 小 企 業	▲ 2.1 (▲ 0.9)	2.1 (1.6)	2.1 (-)		▲ 14.0 (▲ 29.3)
製 造 業	2.1 (▲ 2.3)	▲ 10.5 (▲ 7.1)	▲ 11.9 (-)		1.4 (▲ 30.5)
非 製 造 業	▲ 1.2 (▲ 3.3)	▲ 28.4 (▲ 12.7)	▲ 31.9 (-)		▲ 32.0 (▲ 10.5)

- （注）1.（ ）書は前回（31年1～3月期）調査結果。
2. 全業種の集計結果については、12ページを参照。
3. 「金融業、保険業」の売上高は調査対象外。

3. 雇 用

－ 現状判断は、「不足気味」超幅が縮小 －

元年6月末時点の従業員数判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「不足気味」超幅が縮小している。

これを規模別にみると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「不足気味」超幅が縮小している。

また、業種別にみると、製造業、非製造業とも「不足気味」超幅が縮小している。

先行きについては、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「不足気味」超で推移する見通しとなっている。

《表4》従業員数判断BSI

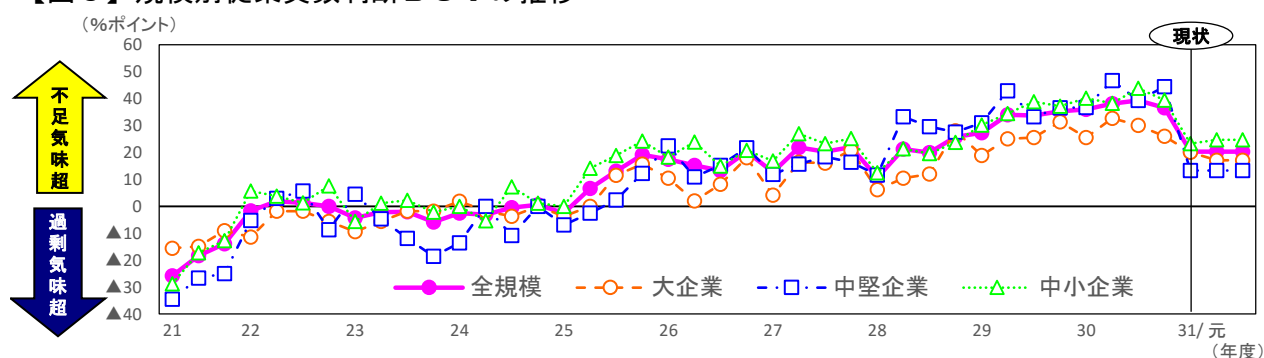
(期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比)

(単位:%ポイント)

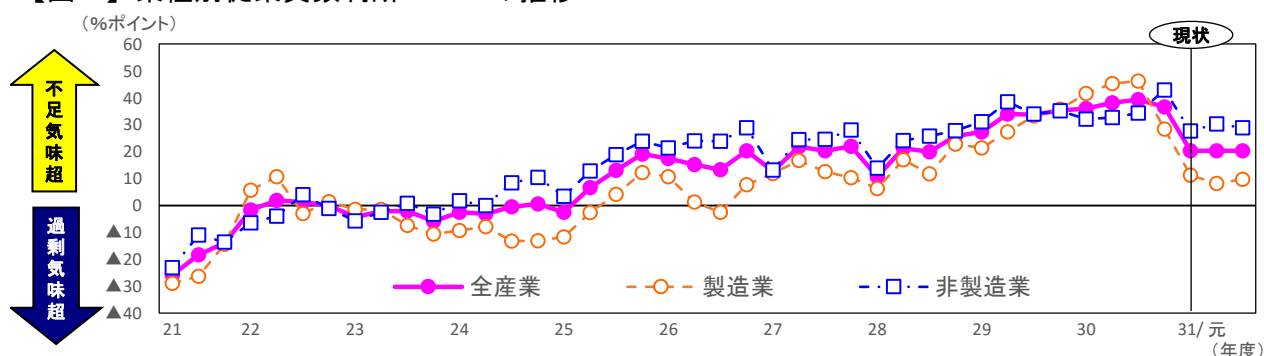
	31年3月末	元年6月末	元年9月末	元年12月末
全規模・全産業	(36.6)	20.3 (23.7)	20.3 (23.7)	20.3
大企業	(26.0)	20.0 (18.0)	17.1 (16.0)	17.1
中堅企業	(44.4)	13.3 (29.6)	13.3 (33.3)	13.3
中小企業	(39.4)	23.3 (24.8)	24.7 (24.8)	24.7
製造業	(28.4)	11.3 (17.3)	8.1 (16.0)	9.7
非製造業	(42.9)	27.6 (28.6)	30.3 (29.5)	28.9

(注) () 書は前回(31年1～3月期)調査結果。

【図3】規模別従業員数判断BSIの推移



【図4】業種別従業員数判断BSIの推移



4. 国内の景況

－ 現状判断は、「下降」超幅が拡大 －

31年4～6月期の国内の景況判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「下降」超幅が拡大している。

これを規模別にみると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「下降」超幅が拡大している。

また、業種別にみると、製造業は「下降」超幅が縮小し、非製造業は「下降」超幅が拡大している。

先行きについては、大企業は7～9月期に均衡となるものの、10～12月期に再び「下降」超に転じる見通し、中堅企業、中小企業は「下降」超で推移する見通しとなっている。

《表5》国内の景況判断BSI

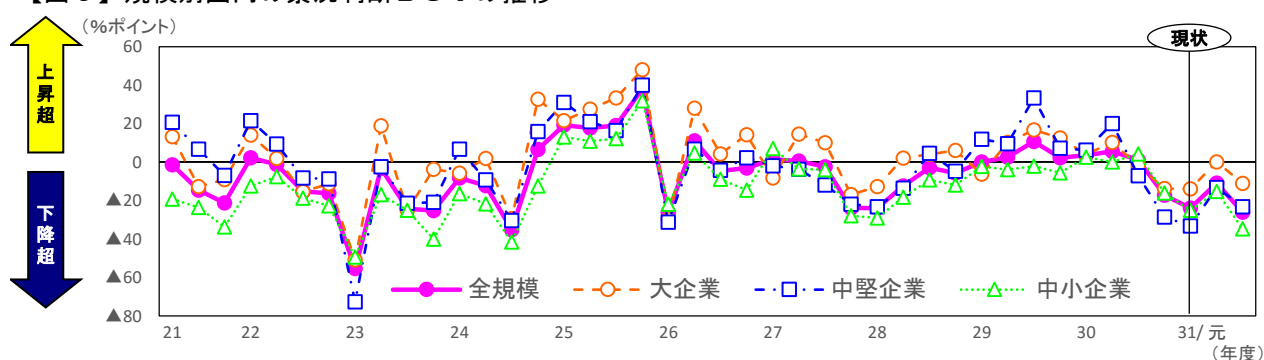
(前期比「上昇」－「下降」社数構成比)

(単位:%ポイント)

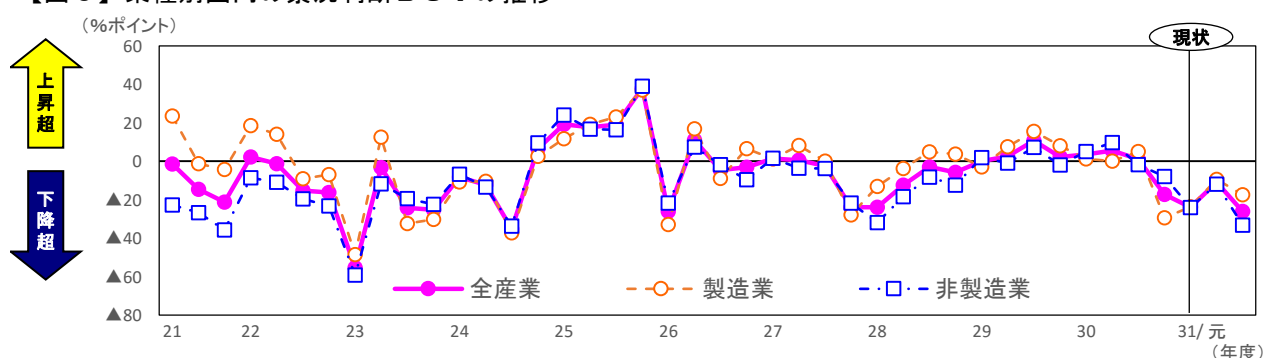
	31年1～3月	31年4～6月	元年7～9月	元年10～12月
全規模・全産業	(▲17.3)	▲23.9 (▲3.6)	▲10.9 (3.0)	▲26.1
大企業	(▲13.7)	▲13.9 (▲3.9)	0.0 (5.9)	▲11.1
中堅企業	(▲28.6)	▲33.3 (0.0)	▲13.3 (7.1)	▲23.3
中小企業	(▲16.1)	▲25.0 (▲4.2)	▲15.3 (0.8)	▲34.7
製造業	(▲29.4)	▲23.8 (▲3.5)	▲9.5 (1.2)	▲17.5
非製造業	(▲8.0)	▲24.0 (▲3.6)	▲12.0 (4.5)	▲33.3

(注) () 書は前回(31年1～3月期)調査結果。

【図5】規模別国内の景況判断BSIの推移



【図6】業種別国内の景況判断BSIの推移



5. 設備判断

－ 現状判断は、「過大」超に転じる －

元年6月末時点の設備判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「過大」超に転じている。

これを規模別にみると、大企業は「不足」超に転じ、中堅企業は「不足」超から均衡となっており、中小企業は「過大」超に転じている。

また、業種別にみると、製造業、非製造業とも「過大」超に転じている。

先行きについては、大企業は9月末に均衡となる見通し、中堅企業は12月末に「過大」超に転じる見通し、中小企業は9月末に「不足」超に転じる見通しとなっている。

《表6》設備判断BSI

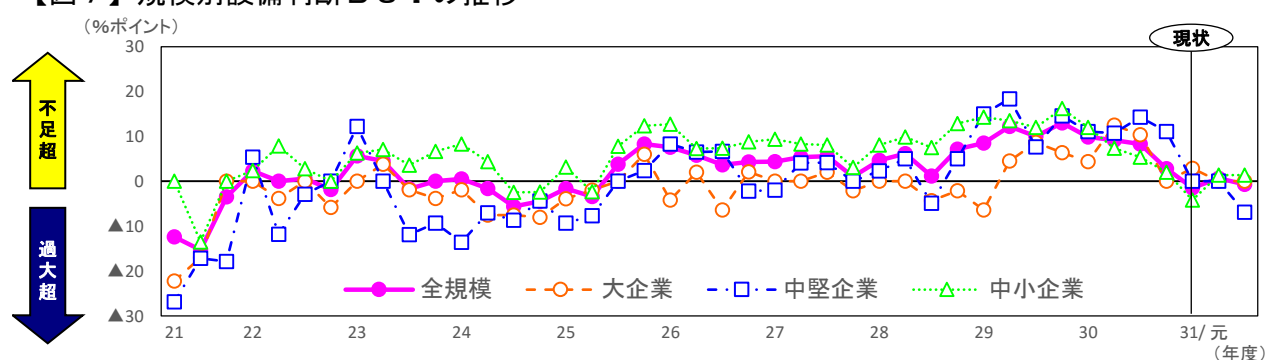
(期末判断「不足」―「過大」社数構成比)

(単位:%ポイント)

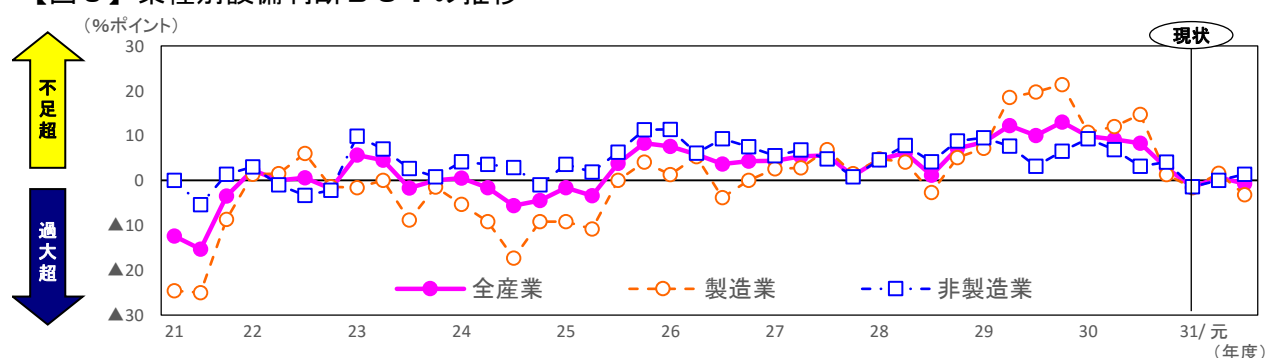
	31年3月末	元年6月末	元年9月末	元年12月末
全規模・全産業	(2.8)	▲ 1.5 (0.6)	0.7 (4.0)	▲ 0.7
大企業	(0.0)	2.9 (2.1)	0.0 (4.2)	0.0
中堅企業	(11.1)	0.0 (7.4)	0.0 (14.8)	▲ 6.9
中小企業	(2.0)	▲ 4.2 (▲ 2.0)	1.4 (1.0)	1.4
製造業	(1.3)	▲ 1.6 (0.0)	1.6 (6.3)	▲ 3.2
非製造業	(4.1)	▲ 1.4 (1.0)	0.0 (2.1)	1.4

(注) () 書は前回(31年1～3月期)調査結果。

【図7】規模別設備判断BSIの推移



【図8】業種別設備判断BSIの推移



6. 設備投資のスタンス

今年度における「設備投資のスタンス」を全規模・全産業ベースでみると、回答の多い順に「生産（販売）能力の拡大」、「省力化合理化」、「維持更新」となっている。

これを規模別にみると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「生産（販売）能力の拡大」をあげる企業が最も多い。

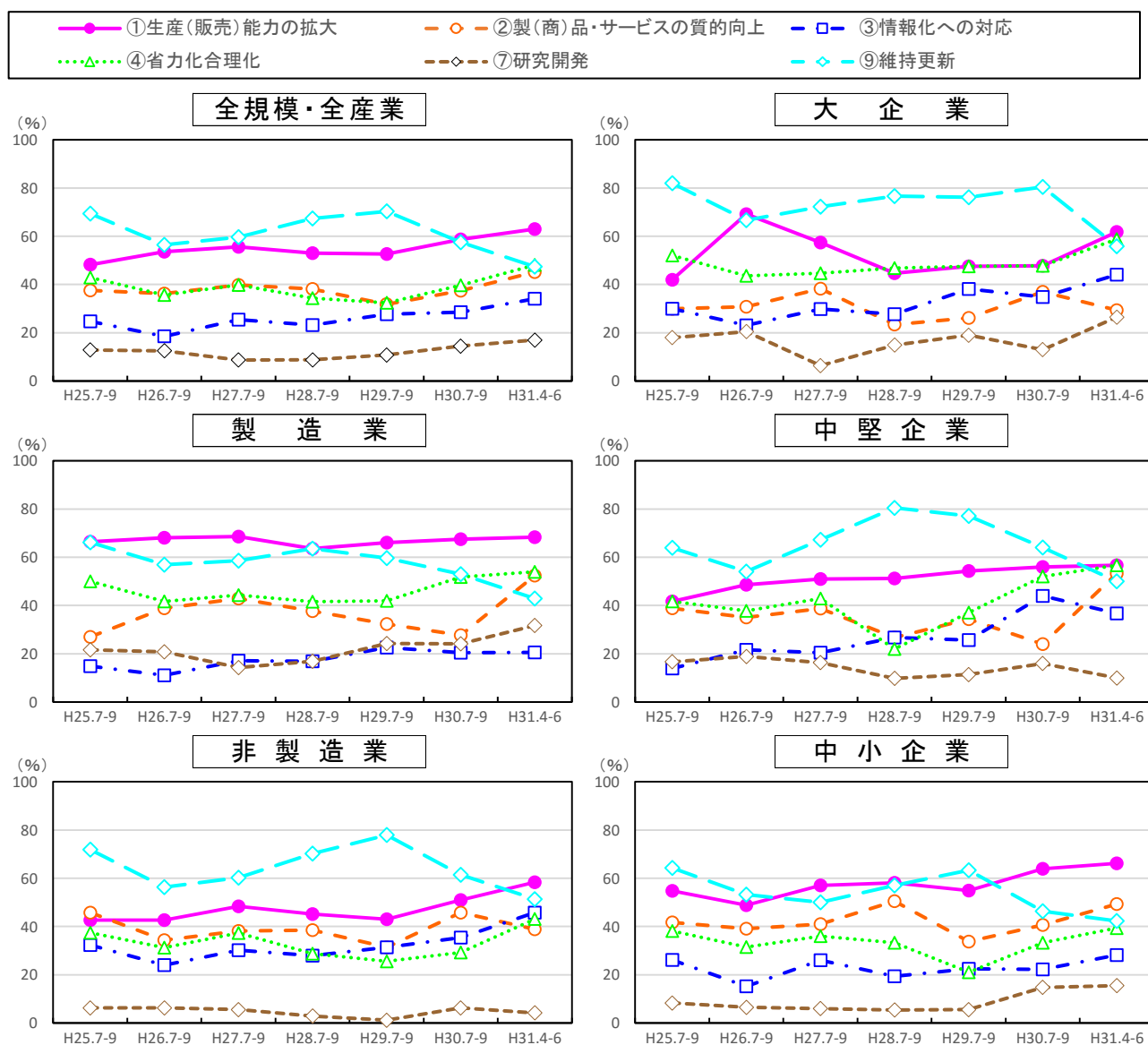
また、業種別にみると、製造業、非製造業とも「生産（販売）能力の拡大」をあげる企業が最も多い。

＜表7＞設備投資のスタンス（1社3項目以内の複数回答）

（回答社数構成比：%）

	① 生産（販売）能力の拡大	② 製（商）品・サービスの質的向上	③ 情報化への対応	④ 省力化合理化	⑤ 環境対策	⑥ 海外投資	⑦ 研究開発	⑧ 新事業への進出	⑨ 維持更新	⑩ その他
全規模・全産業	63.0	45.2	34.1	48.1	8.1	4.4	17.0	11.1	47.4	2.2
大企業	61.8	29.4	44.1	58.8	5.9	5.9	26.5	5.9	55.9	2.9
中堅企業	56.7	53.3	36.7	56.7	10.0	6.7	10.0	6.7	50.0	0.0
中小企業	66.2	49.3	28.2	39.4	8.5	2.8	15.5	15.5	42.3	2.8
製造業	68.3	52.4	20.6	54.0	1.6	9.5	31.7	11.1	42.9	3.2
非製造業	58.3	38.9	45.8	43.1	13.9	0.0	4.2	11.1	51.4	1.4

【図9】設備投資のスタンスの推移



7. 資金調達方法（除く「金融業、保険業」）

今年度における「資金調達方法」を全規模・全産業ベースでみると、回答の多い順に「民間金融機関」、「内部資金」、「公的機関」となっている。

これを規模別にみると、大企業、中小企業は「民間金融機関」、中堅企業は「内部資金」をあげる企業が最も多い。

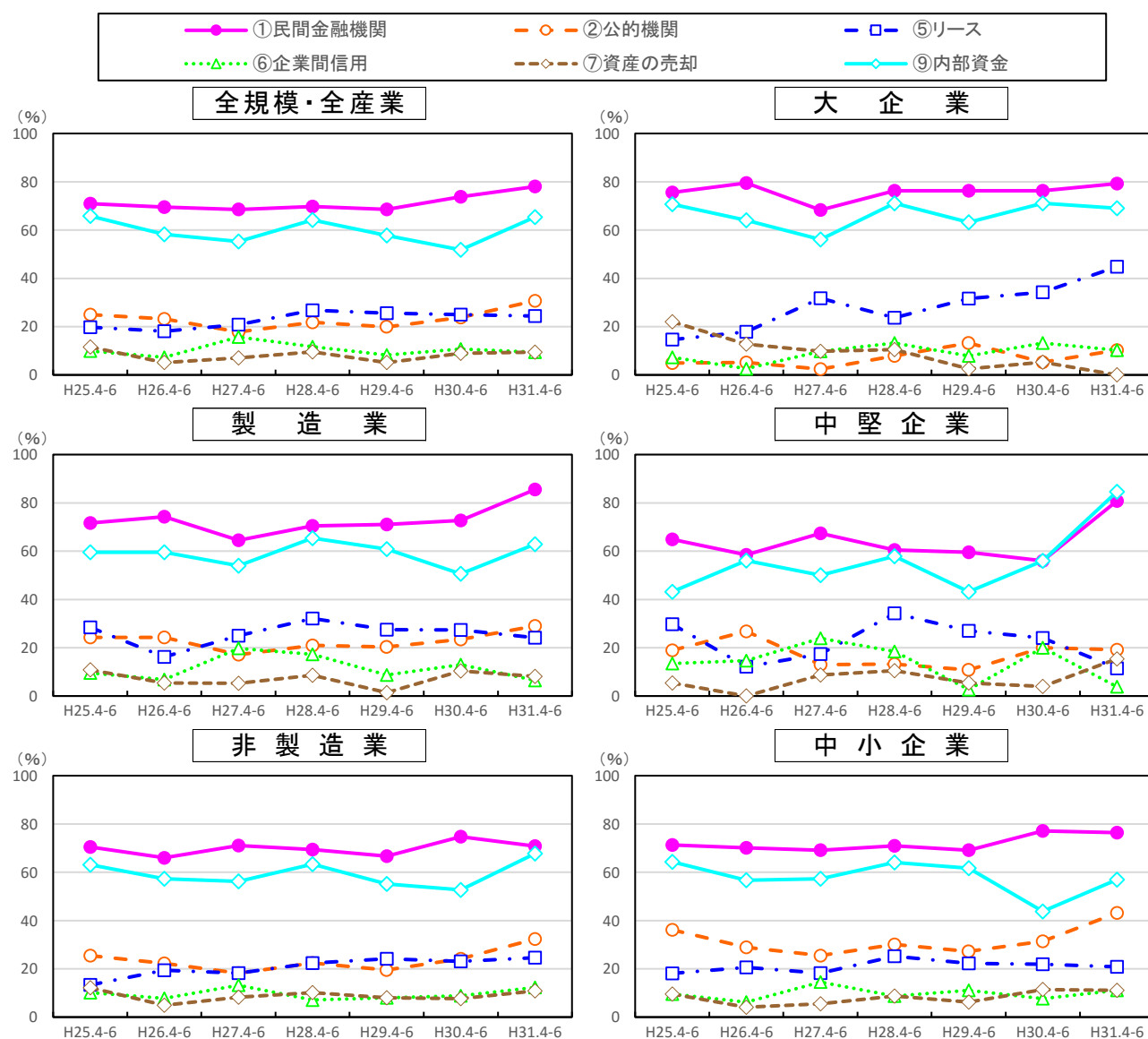
また、業種別にみると、製造業、非製造業とも「民間金融機関」をあげる企業が最も多い。

＜表 8＞資金調達方法（１社３項目以内の複数回答）

（回答社数構成比：％）

	① 民間金融機関	② 公的機関	③ 株式の発行	④ 社債の発行	⑤ リース	⑥ 企業間信用	⑦ 資産の売却	⑧ 資産の流動化・証券化	⑨ 内部資金	⑩ その他
全規模・全産業	78.0	30.7	3.1	1.6	24.4	9.4	9.4	5.5	65.4	7.9
大企業	79.3	10.3	10.3	6.9	44.8	10.3	0.0	3.4	69.0	3.4
中堅企業	80.8	19.2	0.0	0.0	11.5	3.8	15.4	7.7	84.6	15.4
中小企業	76.4	43.1	1.4	0.0	20.8	11.1	11.1	5.6	56.9	6.9
製造業	85.5	29.0	1.6	3.2	24.2	6.5	8.1	6.5	62.9	6.5
非製造業	70.8	32.3	4.6	0.0	24.6	12.3	10.8	4.6	67.7	9.2

【図 10】資金調達方法の推移



（注）「金融業、保険業」は調査対象外。

<参考資料> 企業収益の全業種集計

《表 9》企業収益（売上高（含む「電気・ガス・水道業」、除く「金融業、保険業」）、
経常利益（含む「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」））

（前年比増減率：％）

	売 上 高	経 常 利 益	
		（受取配当金を除く）	
全 規 模 ・ 全 産 業	0.7 (▲ 2.6)	▲ 15.8 (▲ 14.2)	▲ 25.3 (-)
大 企 業	0.9 (▲ 4.0)	▲ 19.2 (▲ 17.0)	▲ 33.4 (-)
中 堅 企 業	0.9 (0.7)	3.7 (▲ 1.0)	4.5 (-)
中 小 企 業	▲ 2.1 (▲ 0.9)	2.1 (1.6)	2.1 (-)
製 造 業	2.1 (▲ 2.3)	▲ 10.5 (▲ 7.1)	▲ 11.9 (-)
非 製 造 業	▲ 1.0 (▲ 2.9)	▲ 18.7 (▲ 18.3)	▲ 37.4 (-)

（注） 1. () 書は前回（31年1～3月期）調査結果。
2. 「金融業、保険業」の売上高は調査対象外。